

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成29年2月14日

【四半期会計期間】 第70期第3四半期(自平成28年10月1日至平成28年12月31日)

【会社名】 ケイヒン株式会社

【英訳名】 THE KEIHIN CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大津 育 敬

【本店の所在の場所】 東京都港区海岸3丁目4番20号

【電話番号】 03 - 3456 - 7825 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務部長 荒 井 正 俊

【最寄りの連絡場所】 東京都港区海岸3丁目4番20号

【電話番号】 03 - 3456 - 7825 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役財務部長 荒 井 正 俊

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
ケイヒン株式会社(横浜地区)
(神奈川県横浜市鶴見区大黒埠頭15番地2)
ケイヒン株式会社(名古屋地区)
(愛知県名古屋市中川区玉船町2丁目1番地)
ケイヒン株式会社(大阪地区)
(大阪府大阪市北区大淀南1丁目5番1号)
ケイヒン株式会社(神戸地区)
(兵庫県神戸市中央区小野浜町11番47号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第69期 第3四半期 連結累計期間	第70期 第3四半期 連結累計期間	第69期
会計期間	自 平成27年4月1日 至 平成27年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成27年4月1日 至 平成28年3月31日
売上高 (百万円)	35,858	31,979	45,849
経常利益 (百万円)	1,142	708	1,281
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (百万円)	766	470	929
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	694	800	303
純資産額 (百万円)	15,222	15,306	14,831
総資産額 (百万円)	43,903	43,029	41,658
1株当たり四半期(当期) 純利益 (円)	11.75	7.20	14.23
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)			
自己資本比率 (%)	34.7	35.6	35.6

回次	第69期 第3四半期 連結会計期間	第70期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成27年10月1日 至 平成27年12月31日	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	3.97	3.95

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ。)は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生または前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社および連結子会社）が判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）のわが国経済は、円高や個人消費の回復の遅れもあり、生産や輸出は弱い動きとなり、景気回復の動きは緩やかなものとなりました。

このような環境の中、当社グループにおいては、国内貨物の取扱いは堅調に推移しましたが、輸出入貨物の取扱いや輸出車両の海上輸送の取扱いが減少し、港湾作業の取扱いも減少しました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は319億7千9百万円（前年同期比38億7千8百万円の減収、10.8%減）となり、営業利益は国際物流事業の売上減等により7億6千4百万円（前年同期比4億6千9百万円の減益、38.0%減）、経常利益は7億8百万円（前年同期比4億3千3百万円の減益、38.0%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億7千万円（前年同期比2億9千6百万円の減益、38.7%減）となりました。

当社グループのセグメント別の業績は、次のとおりであります。

国内物流事業

国内物流事業におきましては、倉庫業は、既存施設が堅調なことに加え、大阪北摂エリアにおける茨木流通センター新設に伴う取扱い増等により、売上高は46億4千8百万円（前年同期比5.3%増）となり、陸上運送業は、一般貨物輸送の取扱いは減少しましたが、配送取扱い件数が増加し、売上高は110億6千6百万円（前年同期比1.4%増）、流通加工業は、取扱いの増加により、売上高は37億2千7百万円（前年同期比4.0%増）となりました。

以上の結果、国内物流事業の売上高は200億6千万円（前年同期比5億3千6百万円の増収、2.7%増）となりましたが、営業利益は新規施設の開設等に伴う一時的な固定費の増加により13億8千6百万円（前年同期比2億1千1百万円の減益、13.2%減）となりました。

国際物流事業

国際物流事業におきましては、国際運送取扱業は、複合一貫輸送や海運貨物、プロジェクト貨物の取扱いが減少したほか、輸出車両の海上輸送の取扱いが減少し、売上高は104億7千8百万円（前年同期比28.5%減）となり、港湾作業は、船内荷役・沿岸荷役とも減少し、売上高は15億5千1百万円（前年同期比16.5%減）となりました。

一方、航空運送取扱業は、輸出入貨物の取扱いが増加し、売上高は6億1千4百万円（前年同期比1.8%増）となりました。

以上の結果、国際物流事業の売上高は126億4千4百万円（前年同期比44億6千9百万円の減収、26.1%減）となり、営業利益は輸出車両の海上輸送の取扱いが減少したこと等により、4億4千2百万円（前年同期比2億7千9百万円の減益、38.7%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、減価償却の進捗に伴い有形固定資産の減少がありました。受取手形及び営業未収金が増加したほか、株式相場上昇による時価の上昇により投資有価証券が増加したこと等により、前連結会計年度末比13億7千万円増の430億2千9百万円となりました。

負債合計は、営業未払金や社債等が増加したことにより、前連結会計年度末比8億9千6百万円増の277億2千3百万円となりました。

また、純資産合計は、利益剰余金およびその他の包括利益累計額の増加により、前連結会計年度末比4億7千4百万円増の153億6百万円となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当連結会社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更および新たに生じた課題はありません。

なお、当社は、「財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針」を定めており、その内容は次のとおりです。

当社は、株主は市場での自由な取引を通じて決まるものと考えます。したがって、当社の財務及び事業の方針の決定を支配することが可能な量の株式を取得する買付提案に応じるか否かの判断は、最終的には株主の皆様のご意思に委ねられるべきものと考えます。

しかし、株式の大規模買付行為の中には、買収の目的や買収後の経営方針等に鑑み、企業価値ひいては株主共同の利益に対する明白な侵害をもたらすおそれのあるもの、株主に株式の売却を事実上強要するおそれのあるもの、対象会社の取締役会や株主が買付の条件等について検討し、あるいは対象会社の取締役会が代替案を提案するための十分な時間や情報を提供しないものなど、対象会社の企業価値ひいては株主共同の利益を確保し、向上させることにはならないものも存在します。当社は、このような不適切な大規模買付行為を行う者は、当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者として適当ではないと考えます。

そのような大規模買付行為を行おうとする者に対しては、情報開示を積極的に求め、当社取締役会の判断、意見などとともに公表するなど、株主の皆様が適切な判断を行うための情報と時間の確保に努めるとともに、必要に応じて、会社法その他関係法令の許容する範囲内において適切な対応をしております。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	248,000,000
計	248,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成28年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成29年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	65,364,457	65,364,457	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数は1,000株で あります。
計	65,364,457	65,364,457		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成28年12月31日		65,364		5,376		3,689

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成28年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成28年9月30日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式			
議決権制限株式（自己株式等）			
議決権制限株式（その他）			
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 68,000		
完全議決権株式（その他）	普通株式 65,179,000	65,179	
単元未満株式	普通株式 117,457		
発行済株式総数	65,364,457		
総株主の議決権		65,179	

(注) 1 「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式1,000株（議決権1個）が含まれております。

2 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己保有株式761株が含まれております。

【自己株式等】

平成28年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 （株）	他人名義 所有株式数 （株）	所有株式数 の合計 （株）	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合（%）
（自己保有株式） ケイヒン株式会社	東京都港区海岸3丁目4-20	68,000		68,000	0.10
合計		68,000		68,000	0.10

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成28年10月1日から平成28年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成28年4月1日から平成28年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,023	2,080
受取手形及び営業未収金	5,032	5,973
貯蔵品	11	13
繰延税金資産	36	28
その他	922	1,333
貸倒引当金	8	5
流動資産合計	8,017	9,426
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	45,825	46,035
減価償却累計額	29,630	30,505
建物及び構築物(純額)	16,195	15,529
機械装置及び運搬具	3,115	3,194
減価償却累計額	1,779	1,947
機械装置及び運搬具(純額)	1,336	1,247
工具、器具及び備品	2,787	2,825
減価償却累計額	2,466	2,550
工具、器具及び備品(純額)	321	274
土地	8,074	8,074
リース資産	683	815
減価償却累計額	303	319
リース資産(純額)	379	495
建設仮勘定	3	24
有形固定資産合計	26,310	25,646
無形固定資産		
借地権	977	977
その他	570	561
無形固定資産合計	1,547	1,538
投資その他の資産		
投資有価証券	4,646	5,280
繰延税金資産	189	151
その他	931	965
貸倒引当金	23	23
投資その他の資産合計	5,743	6,374
固定資産合計	33,601	33,559
繰延資産		
社債発行費	39	44
繰延資産合計	39	44
資産合計	41,658	43,029

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成28年12月31日)
負債の部		
流動負債		
営業未払金	3,608	4,159
短期借入金	4,662	4,803
1年内償還予定の社債	2,000	2,000
リース債務	110	138
未払法人税等	153	47
繰延税金負債	0	0
その他	1,588	1,651
流動負債合計	12,122	12,800
固定負債		
社債	2,000	2,900
長期借入金	8,362	7,615
長期末払金	133	62
リース債務	299	399
繰延税金負債	-	217
役員退職慰労引当金	1,000	751
退職給付に係る負債	2,552	2,597
その他	355	379
固定負債合計	14,704	14,923
負債合計	26,827	27,723
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,376	5,376
資本剰余金	4,415	4,415
利益剰余金	4,891	5,035
自己株式	13	13
株主資本合計	14,670	14,813
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	478	1,027
為替換算調整勘定	94	334
退職給付に係る調整累計額	222	201
その他の包括利益累計額合計	161	492
純資産合計	14,831	15,306
負債純資産合計	41,658	43,029

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：百万円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
売上高	35,858	31,979
売上原価	33,282	29,813
売上総利益	2,575	2,165
一般管理費	1,341	1,401
営業利益	1,233	764
営業外収益		
受取利息及び配当金	138	149
その他	27	24
営業外収益合計	165	173
営業外費用		
支払利息	213	174
その他	44	55
営業外費用合計	257	230
経常利益	1,142	708
特別利益		
固定資産売却益	3	-
その他	1	-
特別利益合計	5	-
特別損失		
固定資産処分損	-	1
特別損失合計	-	1
税金等調整前四半期純利益	1,147	706
法人税、住民税及び事業税	287	139
法人税等調整額	92	96
法人税等合計	380	236
四半期純利益	766	470
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	766	470

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)
四半期純利益	766	470
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	12	549
為替換算調整勘定	71	239
退職給付に係る調整額	10	20
その他の包括利益合計	72	330
四半期包括利益	694	800
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	694	800
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(追加情報)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第 2 6 号 平成 2 8 年 3 月 2 8 日) を第 1 四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

1 偶発債務

下記の会社の銀行借入金に対し、債務保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成 2 8 年 3 月 3 1 日)	当第 3 四半期連結会計期間 (平成 2 8 年 1 2 月 3 1 日)
株式会社ワールド流通センター	148百万円	69百万円
青海流通センター株式会社	4	-
合計	153	69

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第 3 四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第 3 四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。) は、次のとおりであります。

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成 2 7 年 4 月 1 日 至 平成 2 7 年 1 2 月 3 1 日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成 2 8 年 4 月 1 日 至 平成 2 8 年 1 2 月 3 1 日)
減価償却費	1,273百万円	1,350百万円

(株主資本等関係)

前第 3 四半期連結累計期間(自 平成 2 7 年 4 月 1 日 至 平成 2 7 年 1 2 月 3 1 日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成27年5月22日 取締役会	普通株式	261	4.0	平成27年3月31日	平成27年6月29日	利益剰余金

当第 3 四半期連結累計期間(自 平成 2 8 年 4 月 1 日 至 平成 2 8 年 1 2 月 3 1 日)

配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年5月24日 取締役会	普通株式	326	5.0	平成28年3月31日	平成28年6月30日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成27年4月1日至平成27年12月31日)
 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	国内物流事業	国際物流事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	18,847	17,010	35,858	-	35,858
セグメント間の内部売上高 又は振替高	675	102	778	778	-
計	19,523	17,113	36,637	778	35,858
セグメント利益	1,597	721	2,319	1,085	1,233

(注) 1 セグメント利益の調整額 1,085百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用 1,085百万円であります。全社費用は、主として報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)
 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結損益 計算書計上額 (注)2
	国内物流事業	国際物流事業	合計		
売上高					
外部顧客への売上高	19,433	12,546	31,979	-	31,979
セグメント間の内部売上高 又は振替高	627	97	724	724	-
計	20,060	12,644	32,704	724	31,979
セグメント利益	1,386	442	1,828	1,064	764

(注) 1 セグメント利益の調整額 1,064百万円は、主に各報告セグメントに配分していない全社費用 1,064百万円であります。全社費用は、主として報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(1 株当たり情報)

1 株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成 2 7 年 4 月 1 日 至 平成 2 7 年 1 2 月 3 1 日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成 2 8 年 4 月 1 日 至 平成 2 8 年 1 2 月 3 1 日)
1 株当たり四半期純利益金額	11.75円	7.20円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	766	470
普通株主に帰属しない金額 (百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期 純利益金額 (百万円)	766	470
普通株式の期中平均株式数 (千株)	65,296	65,295

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在していないため記載して
 おりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年2月13日

ケイヒン株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 安田 弘 幸 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 種村 隆 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているケイヒン株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成28年10月1日から平成28年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成28年4月1日から平成28年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、ケイヒン株式会社及び連結子会社の平成28年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管している。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていない。